

沼津市立病院広報誌

numa

capital

ぬまぴる

vol.32
Jan.2025

見開き
特集

災害派遣医療チーム (DMAT)



沼津市立病院のDMAT 隊員

沼津市立病院

災害派遣医療チーム

“DMAT”

ディーマツト



今回は、令和6年1月1日に発生した能登半島地震で被害を受けた石川県輪島市に出勤した当院のDMAT（災害派遣医療チーム：Disaster Medical Assistance Team）隊員の皆さんに、お話を伺いました。

Q. DMATとはどのようなチームですか？

A. DMATは、災害現場で救命措置等に対応できる機動性を備え、専門的なトレーニングを受けた医療チームで、災害現場で医療活動、被災地の病院支援、広域医療搬送などを行います。

現場では円滑な活動が重要であるため、日頃からコミュニケーションを取っている医療機関ごとで活動するケースが多いですが、他の医療機関の隊員との混成チームで活動することもあります。基本的なチーム編成は、医師1名、看護師2名、業務調整員1名の4名です。このうち、業務調整員は、

薬剤師、放射線技師、事務職など様々な職種の者が担っています。

Q. DMATの皆さんは特別な資格を持っているのですか？

A. 厚生労働省が開催する「日本DMAT隊員養成研修」で、講義や演習などを受講し、試験に合格すると「DMAT隊員」として登録されます。当院には22名の隊員がいます（医師5名、看護師8名、薬剤師1名、診療放射線技師2名、臨床検査技師2名、臨床工学技士1名、事務職3名※令和6年12月末現在）。

Q. 災害発生時、どのように派遣されるのですか？

A. 大規模災害が発生したときは、静岡県がDMAT調整本部を設置し、各医療機関と連絡を取り合いながら、派遣調整を行います。被災現場の混乱を回避するため、チームの独断で出向くのではなく、県単位で派遣部隊と派遣時期を決定します。



1. 腕の痛みを訴える避難者を診察した整形外科の梶原医師は、患部の状態などから骨折を疑い、ダンボールを添え木として代用し、応急処置を行った。
2. 情報収集と連絡調整が重要となる本部。衛星通信サービス「Starlink(スターリンク)」により、通信環境は確保されていた。
3. 当院 DMAT は、令和6年1月24日に帰院し、1月26日に頼重市長に活動内容の報告を行った。当院は、その後も、災害支援ナースの派遣やDMAT業務調整員の派遣(金沢市)を行った。

Q. 能登半島地震の際にはどのような流れで派遣されたのですか？

A. 発災直後から、当院の隊員間で連絡を取りつつ、静岡県と調整を行いました。そして、当院DMATは県の派遣要請に基づき、第6次隊第2クール(令和6年1月20日～24日)で輪島市派遣が決定

しました。
 現地に向かう際に、医療資機材のほか寝袋や食料、飲み物の各自携行が求められました。また、積雪地域ということもあり、スタッドレスの大型車両(バン)が必要で、レンタカーの手配に苦慮しました。

Q. 現地はどのような状況でしたか？

A. 輪島市東端の町野地区が活動場所でした。輪島市役所町野支所が被災し使用できなかつたため、避難所でもある隣接中学校内に設けられた仮設支所で、消防や自衛隊など様々なチームと連携し、本部調整業務や避難者の回診を行うことになりました。

地域住民の信頼が厚い町野地区唯一の医師の方がいらつしやり、その方を中心として活動しました。医療ニーズは既に落ち着いた状態でしたが、断水が続いており、トイレの使用方法が大きな課題だと感じました。

Q. 日頃どのような取組をしているのですか？

A. 静岡県総合防災訓練や政府訓練と呼ばれる大規模地震時医療活動訓練への参加を通じ、発災直後や数日内でも被災地で円滑かつ迅速に対応できるよう、技能の向上を図るとともに、チーム力を磨い



令和5年度静岡県総合防災訓練の様子

ています。

当院は「災害拠点病院」であるため、県東部を含む大規模災害が発生したときは、他の地域のDMATを受け入れ、その方々と連携し、重症傷病者の救命にあたります。

皆様も、病院や避難所等でDMATと接する機会があると思いますので、この機会にぜひ、DMATのことを覚えておいてください。

能登半島の1日も早い復興をお祈りいたします。

PICK UP

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）【人生会議】

～自分のことを自分で決めるために～

ACPとは、「もしも」のときに備えて、どのような医療やケアを望むかを、家族や信頼のおける人、医療・介護従事者等と事前に話し合い、共有することです。厚生労働省では、これを「人生会議」と言っています。「もしも」のとき、自分自身で意思表示できる状態とは限りません。事前に希望を伝え、残しておくことが推奨されています。

【当院の取組】



当院では、医師・看護師・ソーシャルワーカーで構成するチームで、ACPに対応しています。最善の選択をするためには患者さんご本人やご家族からの情報が重要です。このため、「治療について考えていくための質問用紙」に記入をお願いしています。

この用紙を基にして、患者さんご本人やご家族、医療従事者で治療方針の検討を行うとともに、「もしも」のときには、ご本人が重要視することや人生観・価値観を踏まえた最善の選択ができるよう努めています。

PICK UP

臨床検査科が品質保証施設認証を受けました

【品質保証施設認証制度】

平成30年12月施行の改正医療法により、診療、施設の実情に応じた検査の正確性や精密性を確認すること（精度管理）が以前よりも厳しく求められるようになりました。

令和4年6月から一般社団法人日本臨床衛生検査技師会は、内部精度管理の実施状況や外部精度管理調査の積極的な受検状況に基づいて臨床検査室の品質が保証されている施設を、品質保証施設として認証する制度の運用を開始しました。

部門	臨床化学、血液、一般、免疫血清、微生物、輸血、細胞、生理、病理、遺伝子
----	-------------------------------------

【当院の取組】

臨床検査科では、第三者機関が実施する様々な外部精度管理調査に参加しています。そして令和6年、厳しい基準をクリアし、「品質保証施設」に認証されました（上記10部門全て）。

地域の皆様が安心して検査を受けられるよう、今後も高い精度を維持していきます。



— 市民のために 共に歩む病院 —

沼津市立病院広報誌「ぬまピタル vol.32」
発行：広報委員会・病院管理課企画係
ぬまピタルバックナンバー →
当院 YouTube チャンネル →

〒410-0302 沼津市東椎路字春ノ木 550 番地

Tel: 055-924-5100 (内線 2370)

Mail: byoin-so@city.numazu.lg.jp

ぬまピタルに関するご意見・ご感想をぜひお寄せください。

